

2009年度（平成22年3月期） 第2四半期決算説明会

大日本住友製薬株式会社
代表取締役社長 多田 正世
2009年10月30日

経営成績

金額単位：億円

	08年度2Q	09年度2Q	前年同期比		09年度2Q	
			増減額	増減率	業績予想	差額
売上高	1,344	1,322	△ 21	△ 1.6 %	1,306	16
営業利益	182	189	7	4.1 %	128	61
経常利益	182	191	8	4.6 %	124	67
四半期純利益	109	127	18	16.4 %	78	49

(注)1.記載金額は億円未満を四捨五入しております。

2.当年度より「住友製薬(蘇州)有限公司」を連結の範囲に含めております。

売上高の内訳

金額単位：億円

	08年度2Q	09年度2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,344	1,322	△ 21	△ 1.6 %
医薬品	1,061	1,035	△ 26	△ 2.4 %
国内	936	914	△ 22	△ 2.3 %
海外	125	121	△ 4	△ 3.2 %
その他	282	287	4	1.5 %

(増収要因)

- ・ガスマチン、プロレナール、メロペンの増収
- ・ロナセン、アムビゾームの伸長

(減収要因)

- ・後発品の影響によるアムロジンの減収

主要製品の売上高

金額単位：億円

	08年度2Q	09年度2Q	前年同期比		09年度2Q	
			増減額	増減率	実績予想	差額
アムロジン	305	269	△ 37	△ 12.0 %	253	16
ガスモチン	99	104	5	4.9 %	104	△ 0
プロレナール	73	78	5	7.0 %	77	1
メロペン	73	76	3	4.8 %	66	10
戦略4製品 計	551	527	△ 23	△ 4.2 %	500	27
ロナセン	13	30	16	122.3 %	28	2
アバプロ	13	10	△ 3	△ 22.2 %	21	△ 11
トレリーフ	-	4	4	-	4	△ 0
新製品 計	27	44	17	64.0 %	53	△ 9
エバステル	39	40	1	2.6 %	33	7
スミフェロン	30	30	△ 0	△ 0.7 %	30	0
アムビゾーム	14	19	5	34.2 %	19	△ 0

(注) 売上高は、国内売上高をリベート控除前で記載しております。

売上原価・販売費及び一般管理費

金額単位：億円

	08年度2Q		09年度2Q		前年同期比	
		対売上高 比率		対売上高 比率	増減額	増減率
売上高	1,344	—	1,322	—	△ 21	△ 1.6 %
売上原価	528	39.3 %	513	38.8 %	△ 15	△ 2.9 %
売上総利益	815	60.7 %	809	61.2 %	△ 6	△ 0.8 %
販売費及び一般管理費	633	47.2 %	620	46.9 %	△ 14	△ 2.2 %
販売費・一般管理費	385	28.7 %	377	28.6 %	△ 8	△ 2.1 %
研究開発費	248	18.5 %	242	18.3 %	△ 5	△ 2.2 %
営業利益	182	13.5 %	189	14.3 %	7	4.1 %

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上原価)

- ・棚卸資産の評価に関する会計基準適用の影響が減少

(販売費及び一般管理費)

- ・新製品関連費用(販売促進費、広告宣伝費)の減少
- ・ルラシドン海外臨床開発費は増加

営業外損益及び特別損益

金額単位：億円

	08年度2Q	09年度2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
営業利益	182	189	7	4.1 %
営業外損益	0	1	1	
金融収支(受取配当金を含む)	8	7	△ 1	
寄付金	△ 9	△ 9	0	
その他	1	4	2	
経常利益	182	191	8	4.6 %
特別損益	—	—	—	
法人税等・少数株主利益	△ 73	△ 64	9	
四半期純利益	109	127	18	16.4 %

財政状態

金額単位：億円

	前期末 (2009年3月31日)	当四半期末 (2009年9月30日)	増減額
資産の部	3,913	3,942	29
流動資産	2,635	2,706	70
固定資産	1,278	1,236	△ 41
負債の部	668	610	△ 58
流動負債	533	469	△ 64
固定負債	134	141	6
純資産の部	3,245	3,332	87

(自己資本比率)

82.9%

84.5%

(資産の部)

- ・有価証券の増加…………… 80億円
- ・長期預金の減少…………… △ 30億円

(負債の部)

- ・支払手形及び買掛金の減少…………… △ 61億円

キャッシュ・フロー

金額単位：億円

I 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 130
・ 税金等調整前四半期純利益	+ 191
・ 減価償却費	+ 55
・ 仕入債務の減少額	△ 59
・ 法人税等の支払額	△ 59
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	+ 21
・ 定期預金の払戻	+ 50
・ 有形固定資産の取得	△ 30
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 37
・ 配当金の支払	△ 36

当第2四半期末現金及び現金同等物残高 614億円(前期末比 +119億円)
 うち、連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増額 +5億円

2009年度業績予想の概要

2009年度通期業績予想

金額単位：億円

	08年度 年間実績	09年度		増減額	
		業績予想 (5/11発表)	修正予想	対前年度	対5月予想
売上高	2,640	2,640	2,640	—	—
営業利益	312	250	290	△ 22	40
経常利益	314	240	270	△ 44	30
当期純利益	200	150	180	△ 20	30
研究開発費	528	545	530	2	△ 15

* 2009年度業績修正予想には、セプラコール社の業績予想を含んでおりません。

売上原価・販売費及び一般管理費

金額単位：億円

	08年度 通期実績	09年度		増減額	
		業績予想 (5/11発表)	修正予想	対前年度	対5月予想
売上高	2,640	2,640	2,640	—	—
売上原価	(39.3%) 1,037	(40.3%) 1,065	(39.8%) 1,050	(0.5pt) 13	(△ 0.5pt) △ 15
売上総利益	1,603	1,575	1,590	△ 13	15
販売費及び一般管理費	1,291	1,325	1,300	9	△ 25
販売費・一般管理費	763	780	770	7	△ 10
研究開発費	528	545	530	2	△ 15
営業利益	(11.8%) 312	(9.5%) 250	(11.0%) 290	(△ 0.8pt) △ 22	(1.5pt) 40

- (注) 1. 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。
 2. 前提為替レート 100円/\$、150円/£

(業績修正の理由)

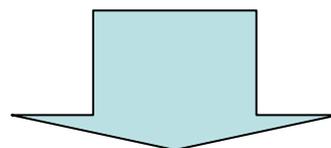
更なる経営効率の追求により、販売費及び一般管理費、製造経費の圧縮が見込まれる。

経営効率の追求

■ 『総合業績改善プロジェクト』の発足(2009年6月)

全社を挙げて経費削減実行計画案の検討、策定を実施中

- ・全体を推進する専任の事務局を設置
- ・全社横断的なテーマは、全社からメンバーを選任
- ・各部門個別課題は、推進メンバーを選任



削減計画

- ・2009年度削減計画: 30億円(対期初計画)
- ・2010年度以降については、第二期中期経営計画に織込み予定

国内収益基盤の強化

■ 地域本部制の導入 (2009年6月26日付)

➡ 地域密着型営業の推進強化、収益性の向上を目指す

■ CNS領域の強化: CNS専任MRの大幅増員 (2009年10月1日付)

MR 88名⇒144名

グループマネージャー 11名⇒18名

- 統合失調症市場をCNS専任MRによりカバー
- 大学病院の精神神経科・神経内科を担当

ロナセンの最大化、新製品トレリーフの早期育成を目指す

Sepracor Inc.の買収

買収の意義

- 米国でのルラシドンの早期立ち上げと事業価値の最大化
- 北米事業基盤の確立
- 医薬品事業の拡大
- 開発パイプラインの一層の拡充

進捗状況

- 9月 3日 買収発表
- 15日 公開買い付け開始
- 10月 19日 公開買い付け終了（応募比率86.9%）
- 20日 買収子会社と合併、米国持株会社の傘下へ
- 11月12日 CEO来日、説明会を実施
(予定)

臨床開発の現況

臨床開発の現況 (2009年10月29日現在)

申請中	第III相試験	第II相試験	第I相試験
糖尿病治療剤 SMP-862 (トホルミン)	統合失調症治療剤 SM-13496 (ルラシドン)	糖尿病合併症治療剤 AS-3201 (ラニレストット)	過活動膀胱治療剤 SMP-986
糖尿病治療剤 SMP-508 (レパグリニド)		高血圧症治療剤 (配合剤) DSP-8153	糖尿病治療剤 DSP-3235
発熱性好中球減少症 メロペン	統合失調症治療剤 双極性障害治療剤 (米国・欧州等) SM-13496 (ルラシドン)	過活動膀胱治療剤 (米国・欧州) SMP-986	アレルギー性疾患治療剤 DSP-3025
	小細胞肺癌治療剤 (中国) アムルピシン		気管支喘息治療剤 (米国・英国) SMP-028
			糖尿病治療剤 (欧州) DSP-7238
			糖尿病治療剤 (米国) DSP-8658



国内開発(新有効成分)



国内開発(適応症追加等)



海外自社開発

本年7月からの変更を白抜き文字で表示

臨床開発 進捗状況 (2009年7月31日からの変更点)

■ ミリプラ®(ミリプラチン): 表より削除

- 2009年10月に製造販売承認を取得したため

■ SMP-508(レパグリニド): 第Ⅲ相試験から申請中に変更

- 適応症: 2型糖尿病



ミリプラ®の概要

【販売名】

ミリプラ®動注用 70mg

【一般名】

ミリプラチン水和物 (miriplatin hydrate)

【効能・効果】

肝細胞癌におけるリピオドリゼーション

【特徴】

- ・ ミリプラ®は、脂溶性の白金錯体です。
- ・ ミリプラ®は、本剤専用の懸濁用液「ミリプラ®用懸濁用液4mL」(一般名:ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル)に懸濁して、リピオドリゼーションに用います。
- ・ ミリプラ®は、肝動脈内投与後に腫瘍局所に滞留し、長期間に渡って白金成分が徐放され、全身への暴露は少ないとの特長を有しており、リピオドリゼーションに適した抗癌剤です。

* リピオドリゼーション: 抗癌剤を油性造影剤(ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル)に懸濁して肝動脈内に投与する局所治療。

SMP-508 (レパグリニド) の概要

【一般名】

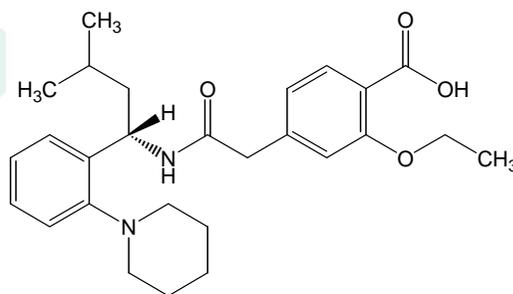
レパグリニド(repaglinide)

【薬効分類】

2型糖尿病治療剤

【特徴】

- 速効型インスリン分泌促進剤。
- 食後血糖上昇の抑制に加え、空腹時血糖やHbA_{1c}の低下が期待される。
- 長期投与においても十分な薬効が期待でき、厳密な血糖コントロール(HbA_{1c}値及び食後血糖推移の改善)を長期間維持することが可能と考えられる。
- Novo Nordisk社から導入品。海外では90カ国以上で販売されている。



ルラシドン 進捗状況

グローバル試験

■ 統合失調症

- プラセボ対照第Ⅲ相試験 (PEARL 1試験)
 - 終了 (継続投与試験実施中)
 - 結果公表済み(2009年5月)
- プラセボ及び実薬対照第Ⅲ相試験 (PEARL 2試験)
 - 終了 (継続投与試験実施中)
 - 結果公表済み(2009年8月)
- 長期安全性投与試験 (PEARL Safety試験)
 - 2008年3月17日、スクリーニング開始、投与中
- プラセボ及び実薬対照第Ⅲ相試験 (PEARL 3試験)
 - 2008年10月27日、スクリーニング開始、投与中

■ 現在、FDAへの新薬承認申請を準備中

➡ 2010年初めの申請予定

**Program to
Evaluate the
Antipsychotic
Response to
Lurasidone**

ルラシドン 進捗状況

グローバル試験

■ 双極性障害（うつ）

- 2008年12月17日、INDをFDAに提出
- 第Ⅲ相試験（PREVAIL試験）
2009年4月、スクリーニング開始、投与中

PRogram to
EValuate the
Antidepressant
Impact of
Lurasidone

国内（Pan-Asia）開発

- 日本、台湾、韓国で統合失調症患者に対する第Ⅲ相試験を実施中
- 試験計画概要
 - 対照薬：プラセボ（参照薬：リスペリドン）
 - 目標症例数：440例
 - 主要評価項目：PANSS

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品(開発中のものを含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

